

Crematory

火葬場整備を考える

市役所で2月28日、火葬場の建設候補地選定に向けた第2回府内会議が開催されました。

市は、前回の府内会議で火葬場建設候補地検討委員会から提出された報告書の評価基準(案)に基づき、15カ所の候補地エリアを関係法令による規制の有無について整理した上で、敷地の状況、周辺環境、利便性などの立地条件から評価し、5カ所に絞り込みました。

今回の会議では、5カ所の候補地を、敷地面積、日当たり状況、事業のスケジュール、財政負担の視点から評価し、1カ所

に絞り込むため協議しました。協議内容は次のとおり。

- ①将来的な建て替えや公園整備などに拡張可能な土地か。
- ②自然の光を取り入れた省エネ設備が設置可能な土地か。
- ③周辺道路の拡幅や上下水道の整備に多額の費用が掛からない土地か。
- ④各種法令に基づく手続きに長期間を要しない土地か。
- ⑤用地の取得に多額の費用が掛からない土地か。
- ⑥敷地造成に多額の費用が掛からない土地か。
- ⑦そのほかの個別要因。

火葬場の建設候補地は、本年度中に市長が選定する予定です。

※火葬場整備に関する詳しい情報は、市ホームページをご覧ください。

御前崎市火葬場

検索



▲候補地選定のため協議する幹部職員

照会 環境課 ☎ 0537 85 1162

市消防本部と御前崎海上保安署、中部電力(株)は1月28日、浜岡原子力発電所の原子力災害を想定した連携訓練を御前崎港で実施し、3機関から約40人が参加しました。

この訓練は、万が一原子力災害が発生した場合でも、地域の災害支援活動を迅速かつ的確に実施できる体制の強化を図るために実施されたものです。今回は、地震や津波の影響で陸路が寸断された事態を想定し、御前崎港から清水港まで海上ルートを使って患者を搬送する連携訓練に取り組みました。

訓練は、①放射性物質に汚染された救急搬送された患者を巡視船「ふじ」で清水港まで海上搬送する。②静岡市消防本部に患者を引き継いで県立総合病院へ送り届けるまでの連携体制の確認。③放射性物質の汚染拡大を防ぐため、巡視

船内の一室を養生シートで覆い、「アイソポッド」と呼ばれる簡易式の隔離装置に入れられた患者を搬送する訓練など、各関係機関と搬送に関する手順を検証しました。

御前崎海上保安署と中部電力(株)による合同訓練は昨年、続々2回目で、市消防本部も加わった3機関での訓練は今回が初めてです。



▲アイソポッドに入った患者を搬送する

Atomic

暮らしと原子力

消防本部、海上保安署、中電が初の原子力災害対応訓練を実施